

大和町まちづくりNews 第17号

★1 第35回と第36回大和町まちづくりの会を開催しました(表面)

★2 直近の地震に関する東京都による調査が公表されました(裏面)

★1 第35回と第36回大和町まちづくりの会を開催しました

第35回「大和町まちづくりの会」概要

- 日時：令和4年10月31日（月）午後7時～8時20分
- 場所：大和区民活動センター洋室2・3号室
- 議題：大和町中央通り（補助第227号線）について（事業主体である東京都第三建設事務所より説明）
- 主な説明内容とご意見：

大和町中央通りの歩道の設え【ご説明した基本案】

①舗装の種類	②道路照明柱・横断抑止柵の色彩	③植栽樹種	
		高木	低木
透水性アスファルト舗装	こげ茶色	モッコク	オオムラサキツツジ
			

- ・川北橋以北の道路が拡幅整備されるまで、規制速度が抑えられることに期待する。
- ・消火栓については、歩道側に設置し、コンパクトで開けやすいものにしてほしい。

当日の様子



・歩道の設えについて、

【左図①】透水性アスファルトのカラー化も選択肢にできないか。

【左図②】照明柱・横断抑止柵の色は、こげ茶色で統一することで良いが、照明柱の位置は住宅地側が眩しくならないよう配慮してほしい。

【左図③】高木は管理が容易な常緑樹が良い。また低木も管理が容易なものが良い。

第36回「大和町まちづくりの会」概要

- 日時：令和4年12月23日（金）午後7時～7時50分
- 場所：大和区民活動センター洋室2・3号室
- 議題：直近の地震に関する東京都による調査について等（中野区より報告）
- 主な意見：

- ・早稲田通りに接する杉並区側の地域危険度も考慮すべきである。

当日の様子



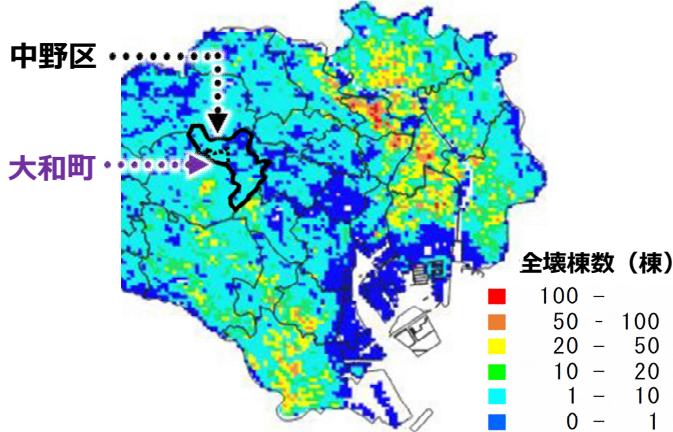
★2 直近の地震に関する東京都による調査が公表されました

東京都は令和4年に「首都直下地震等による東京の被害想定」を公表しました。およそ10年ぶりの見直しです。

これによると中野区は、震度は6弱、全壊棟数は250m×250mの範囲あたりで概ね1-10棟と想定されています。大和町も同様です（下図を参照）。

また、都心南部直下地震と多摩東部直下地震が発生した場合、倒壊や焼失による建物被害数は、中野区内の建物棟数の3%前後と想定されています（下表を参照）。

全壊棟数分布（23区）



建物被害数・死者数（中野区）

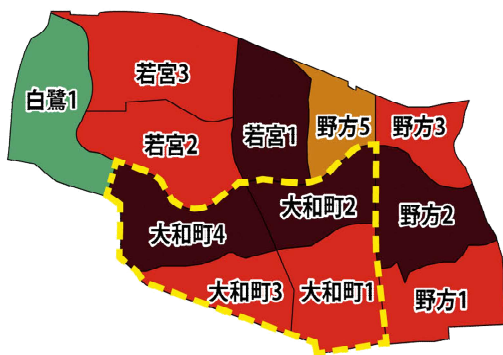
都心南部直下地震	
建物被害数	死者数
1,637 棟 (2.4%)	69 人 (0.02%)
多摩東部直下地震	
建物被害数	死者数
2,339 棟 (3.5%)	98 人 (0.03%)
<small>上の（ ）内は中野区の建物総数に対する割合</small>	<small>上の（ ）内は中野区の昼間人口に対する割合</small>

また東京都は、令和4年に「地震に関する地域危険度測定調査結果」を公表しました。

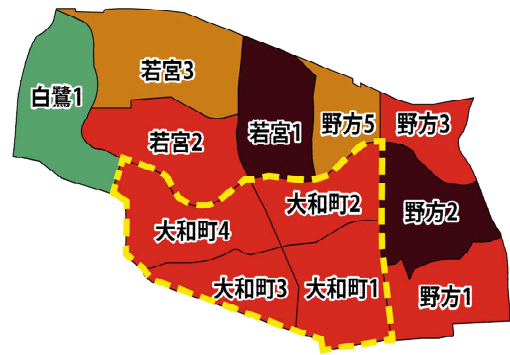
都内の5,192町丁目について、各地域における地震の揺れによる「建物倒壊危険性」「火災危険性」「災害時の活動しにくさ」から「総合危険度」を測定しています。なお、地域危険度のランクは5段階の相対評価で、危険性の高い町丁目から順位付けを行いランク分けしています。

総合危険度

【平成30年】（前回）



【令和4年】（今回）



大和町は、不燃化特区制度を活用した建替え助成等の取組により、令和4年には最も危険性が高いランク5はなくなりましたが、ランク4ということで依然として地震時の危険性が高いエリアであると言えます。



問い合わせ先

中野区 まちづくり推進部 まちづくり事業課 大和町まちづくり担当
電話：03-3228-5449（直通）／FAX：03-3228-8943

表面もご覧ください